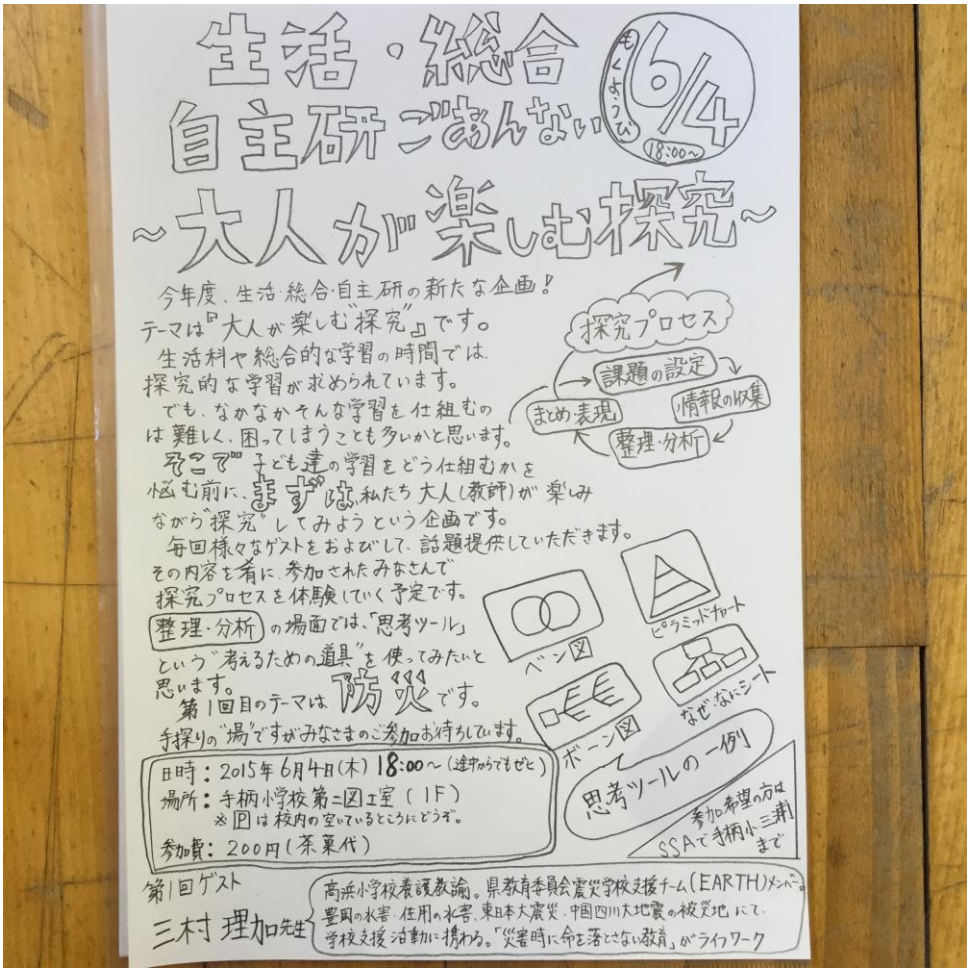
私たちの BOSAI　実践記録

想定災害	☑ 地震 ☑ 津波 ☑ 火災 ☐ 雪 ☑ 台風 ☑ 大雨・洪水 ☐ 竜巻 ☑ 大雪 ☑ その他 （ 交通事故			
参加人数	小学生	１９１名（3,４年生）	教職員	２５名
	中学生		大人	２名
	高校生		その他	
	大学生		合計	２０１名
実施期間	平成　２７年　６月　１６日　～　平成　２７年　９月　３０日			

今回の活動内容 平成26年10月 ～ 平成28年3月	完了	**６ 月４日：【教師】 総合的な学習の時間「私たちのＢＯＳＡＩ」開始前に市の生活総合担当者に呼びかけ、防災学習に関する自主研究会を企画。姫路市の全小学校に呼びかけ、約１０名の教師の参加者があった。ゲストは本単元のアドバイザーでもある兵庫県の震災学校支援チームの三村理加先生。** 研究会では、子ども達が体験する防災活動をどのように＜整理・分析＞していくことができるのかについて、思考ツールを活用した方法を中心に検討。

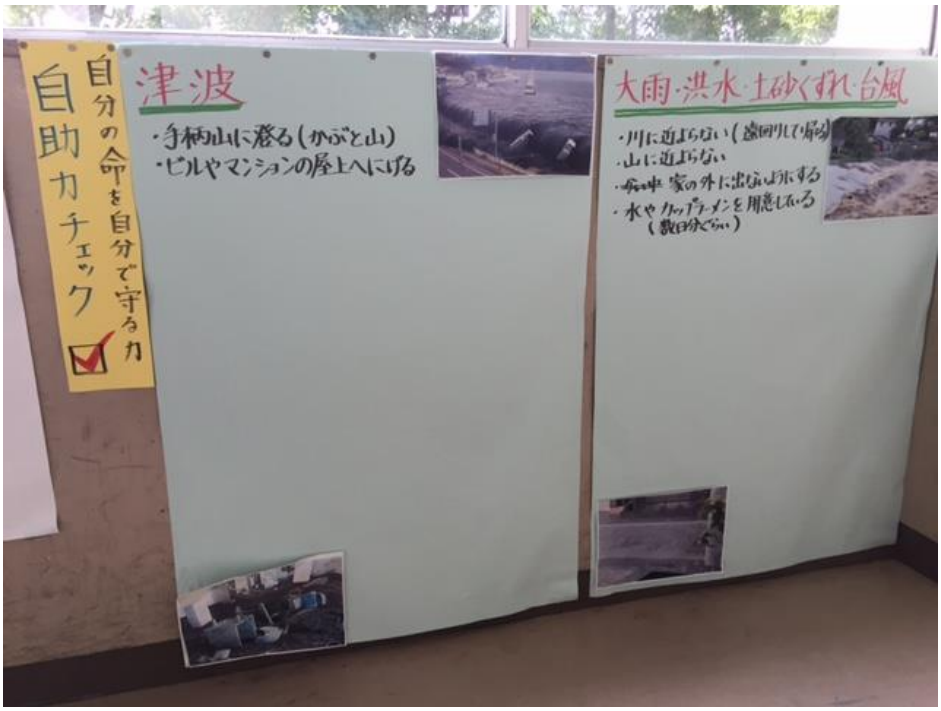


※（数字）は授業時数を表示。

6 月 16 日：災害･防災についてのイメージを広げ、共有する。(1)

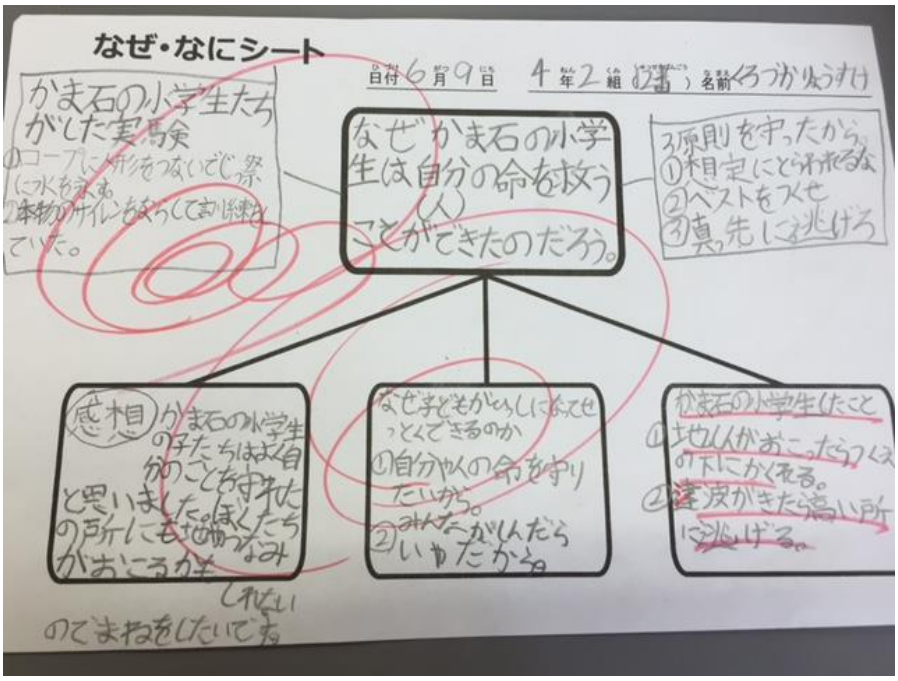
災害には自然災害と人為災害があること。地震や津波は自然現象。でも人が住んでいるところで、人間が被害を受けると「災害」となることも学びました。

6 月 16 日：学習前の自分の自助力（災害別）をチェックする。(1)

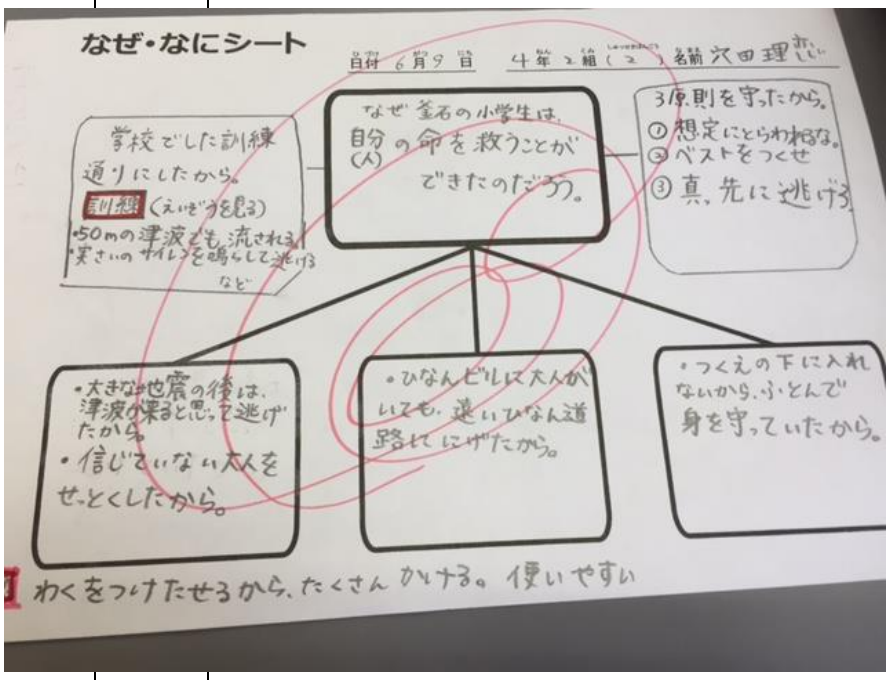


「津波」、「大雨・洪水・台風」、「津波」、「火事」、「交通事故」ごとに、今の時点で自分の力でできること（自助力）を具体的に書き出していきました。

６月 17 日：ＤＶＤ「釜石の奇跡」を視聴して、釜石の子ども達が自分の命を自分で守ることができた理由を考える。(2)



ＤＶＤ視聴後に、思考ツールを活用して釜石の奇跡が可能になった原因を分析しました。釜石小の子ども達の自助力の高さに、驚くと共に、自助力の具体的なイメージを持つことができました。「自分や人の命を守りたい」、「みんなが死ぬのはいや」など、釜石の子ども達の根源的な思いにも心を馳せました。



釜石の子ども達が命を救うことができた原因を「学校でした訓練通りにしたから」と考えた子も多くいました。しっかり備えをすれば、命を守ることができる。自助力を高めること自体がが安心感を高めます。

６月 17 日：災害時におこりうるリスクについて「災害発生時」「発生後～１日」「１日～数週間」に分けて考え、自分がどのリスクに対応する自助力が必要なのかを明確にし、「避難行動」「応急処置」「防災グッズ」の３グループに分かれる。(１)

『地震イツモノート』（プラスアーツ）掲載のイラストを用いて、災害時の起こるリスクを時系列に整理していきました。防災といっても、時間の経過ごとに、対処すべき事象が変化していくことを学びました。

６月１８日：兵庫県防災教育副読本「明日に生きる」を主教材として、各自自分のテーマについて自助力を高めるために調査活動を行う。（３）

６月 18 日：【教師】 職員全体研修にて、単元全体および、研究授業の内容について報告・検討する。

６月 19 日：それぞれのテーマのゲストティーチャーに、調べたことを伝え、不十分な点を指摘してもらう。(1)

３名のゲストティーチャーは以下の通り。

【避難行動担当】 三村理加先生

（姫路市立高浜小学校養護教諭、震災・学校支援チームメンバー）

【応急処置担当】 西野亮子先生（本校養護教諭）

【防災グッズ担当】竹島正大先生（本校事務職員、元震災・学校支援チームメンバー）

本やインターネットを通して「知識」を中心に学んだ子ども達。調べたことを一生懸命伝えました。ゲストティーチャーから、「調べたことを実際にこの場でやってみて」と投げかけがあり、いざやるとなると戸惑う姿も・・・。

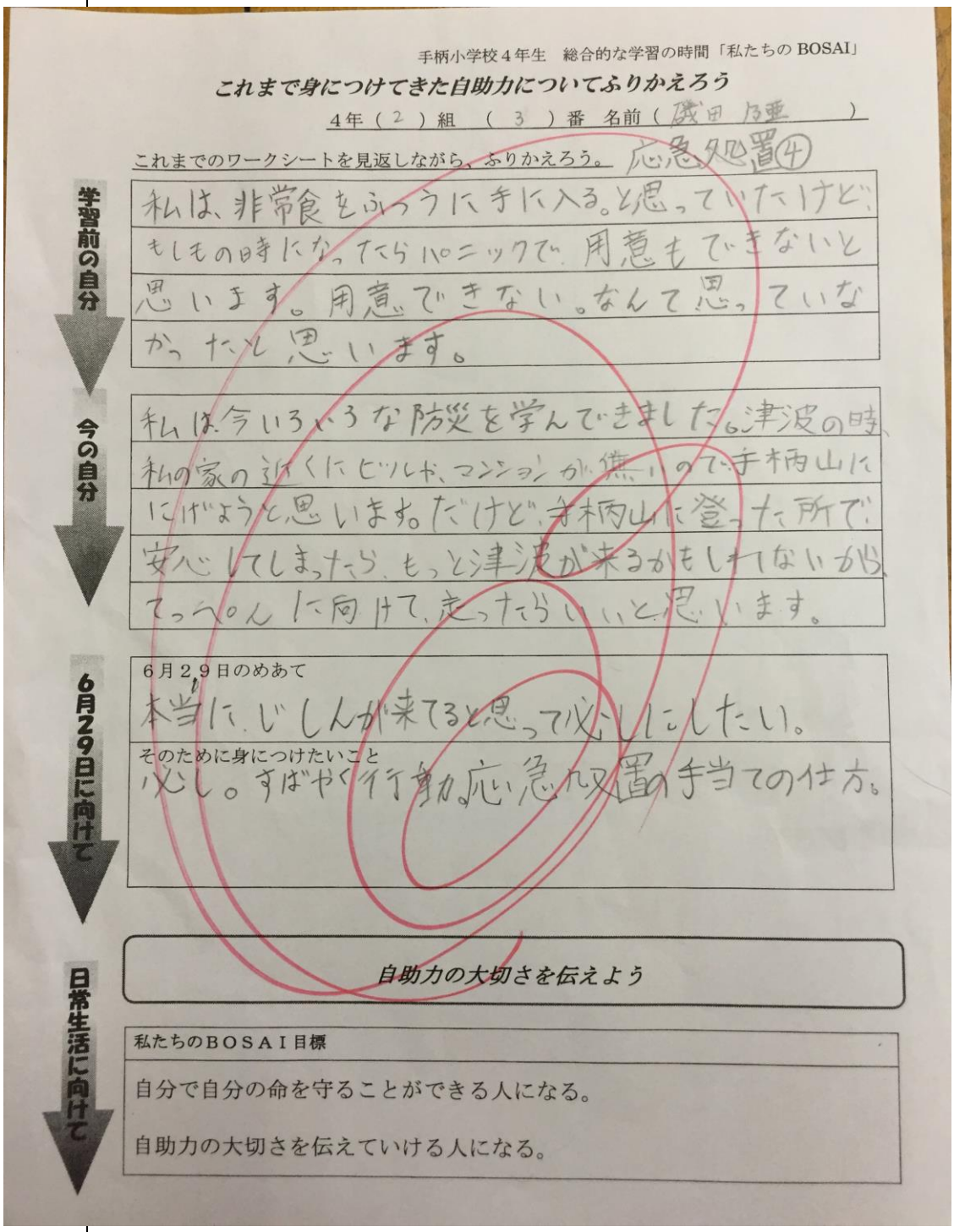
６月 19 日：ゲストから実践的なスキルや行動について学ぶ。（１）

避難行動の担当の三村先生からは、激しく動く可能性のある机をどのように支えるかについても教えていただき、何度も何度も練習しました。また、家から避難所までの避難行動についてもレクチャーがありました。

応急手当担当の本校養護教諭 西野先生からは、担架が近くにない場合に毛布でけが人を運ぶ方法や、骨折したときにビニール袋を使って腕をつる方法を学びました。また声かけの大切さも合わせて教えていただきました。

防災グッズ担当の本校事務職員竹島先生からは、Ａ４用紙で、紙コップや紙皿、スリッパなどを作る方法を教えていただきました。何度も何度も作る練習を重ねました。

6 月 22 日：これまでの学習をふりかえり、自己評価する。（1）



手柄小学校４年生　総合的な学習の時間「私たちの BOSAI」

これまで身につけてきた自助力についてふりかえろう

４年（ 2 ）組　（ 3 ）番　名前（ 磯田 乃亜 ）

これまでのワークシートを見返しながら、ふりかえろう。 応急処置④

学習前の自分

私は、非常食をふつうに手に入る。と思っていたけど、もしもの時になったらパニックで、用意もできないと思います。用意できない。なんて思っていなかったと思います。

今の自分

私は今いろいろな防災を学んできました。津波の時、私の家の近くにビルや、マンションが無いので手柄山ににげようと思います。だけど、手柄山に登った所で安心してしまったら、もっと津波が来るかもしれないから、てっぺんに向けて、走ったらいいと思います。

6月29日に向けて

6月29日のめあて

本当に、じしんが来てると思って必死にしたい。

そのために身につけたいこと

必死。すばやく行動。応急処置の手当ての仕方。

日常生活に向けて

自助力の大切さを伝えよう

私たちのＢＯＳＡＩ目標

自分で自分の命を守ることができる人になる。

自助力の大切さを伝えていける人になる。

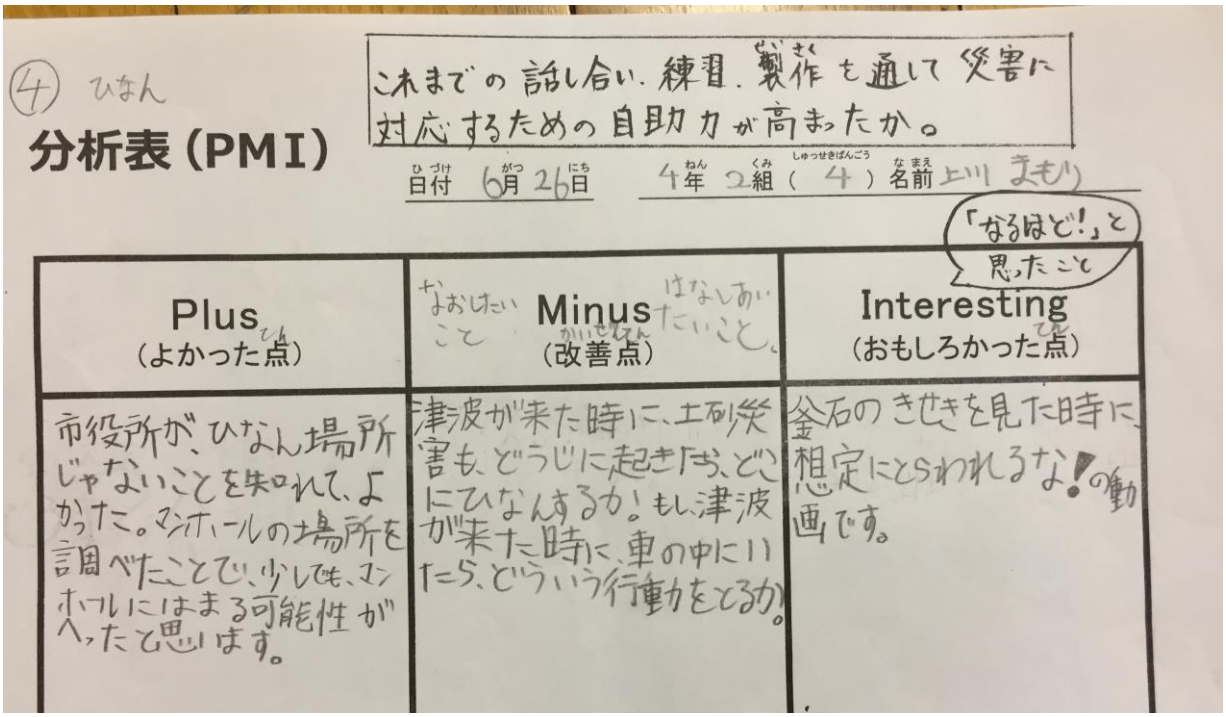
6 月 24 日：学んだスキルや行動を練習して、習得する。②（1）

応急処置グループは、仮想の災害状況の下、自分達が身につけたスキルを使って対応する練習を何度も何度も繰り返した。また、お互いに対応する様子を見あってフィードバックし合った。

避難行動グループは、自分の家から避難所までの避難ルートを確認するとともに、避難時に気をつけること（机の支え方、）話し合ったり、練習したりした。また、家族で防災について話し合う「家族会議」の開き方を、ロールプレイを交え何度も何度も練習した。

防災グッズグループは、防災バックの中に何を入れるかを、その場で判断する練習を重ねたり、避難所ボランティアをしているという仮定で、自分にできることをする体験を重ねたりした。

６月 25 日：２９日の研究授業本番に向けて、思考ツールを用いて、現時点での自分達の自助力を評価する。（１）



④ ひなん

分析表（PMI）

これまでの話し合い、練習、製作を通して災害に対応するための自助力が高まったか。

日付 6月26日　4年 2組（ 4 ）名前 上川 まもり

Plus（よかった点）	Minus（改善点）	Interesting（おもしろかった点）
市役所が、ひなん場所じゃないことを知れて、よかった。マンホールの場所を調べたことで、少しでも、マンホールにはまる可能性がへったと思います。	津波が来た時に、土砂災害も、どうじに起きたら、どこにひなんするか。もし、津波が来た時に、車の中にいたら、どういう行動をとるか。	釜石のきせきを見た時に、想定にとらわれるな！の動画です。

「なるほど！」と思ったこと

６月２６日：オープンスクールにて、防災に関する事項を含む音読発表（国語）

※添付のＤＶＤ参照

左記の内容を含む自作教材をオープンスクールで音読しました。本番に向けて何度も何度も声に出して練習した。国語科と連動した防災学習であり、保護者に対しての防災の啓発にもつながりました。

手柄小学校の学校目標
やかたの　か
「かしこく」
学年目標
「よく聞きよく考えて行動しよう」のもと
総合の時間
「私たちの防災」では
『自助力』を身につけるため
学習しています
『自助力』とは
自分の命を自分で守ること
自分の命を自分で守ること

平成２３年３月１１日
東日本大震災
岩手県釜石市の大渡町
釜石小学校の子ども達は
おそろしい津波から
逃げ切った
自分で考えて行動し
自分の命を守った
身につけた自助力で
自分の命を守った

震災後
避難所になった　釜石小学校
避難所になった　この小学校で
毎朝
みんなで　歌った歌

釜石小学校　校歌
井上ひさし　作詞

いきいき生きる
いきいき生きる
ひとりで立って　まっすぐ生きる
困ったときは　目をあげて
星を目あてに　まっすぐ生きる
息あるうちは　いきいき生きる

はっきり話す
はっきり話す
びくびくせずに　はっきり話す
困ったときは　あわてずに
人間について　よく考える
考えたらな　はっきり話す

しっかりつかむ
しっかりつかむ
まことの知恵を　しっかりつかむ
困ったときは　手を出して
ともだちの手を　しっかりつかむ
手と手をつないで　しっかり生きる

これで四年生の音読発表を終わります
気をつけ　れい

６月２９日：研究授業（本校の全職員が参観）

６グループに分かれ設定された状況の中で自助力を生かして対応する（２）

避難行動グループ①の家族会議のロールプレイの様子

父役、母役、子ども役に分かれて、家族会議をしようと切り出す場面をロールプレイしました。
「お父さん、災害に備えて家族会議しようよ。」
「別に、今することないだろう。また今度な」
「いつも地震が起こってもいいように備えておきたいんだ。南海トラフ大地震の起こる可能性はね・・・」
というようなやりとりを即興で行いました。

避難行動グループ②の校区での避難訓練の様子

事前にビデオで撮影した校区での避難訓練の様子を、みんなで見ました。

詳しくは添付のＤＶＤ約（５分間）をご覧ください。

応急処置グループ①の災害対応訓練の様子

おじいちゃん（７０才）、お母さん、自分の妹（３才）とお泊りに来ていたその友だち（３才）、小学校４年生の自分が家にいます。大雨洪水けいほうが出された夜、寝ているときに、「ひなんかんこく」が姫路市から出されました。急いでみんなでひなんすることになりました。玄関を出ると川の水がくるぶしの高さまで上がってきています。ひなんするとちゅう、暗くておじいさんがみぞに落ち、左うでを骨折しているようです。妹とその友だちも水のいきおいで足をすくわれ、こけてしまいました。妹は鼻をうって鼻血を出して泣いています。妹の友だちは右ひざをすりむき出血しています。２人とも泣いています。

【うでの骨折の手当・鼻血の手当・止血・声かけ】

上記の状況設定（似たような状況で訓練してきましたが、初めて提示されたもの）の下、これまで学んできた応急処置のスキルを使って、対応しました。子ども達は、不安で押しつぶされそうになりながらも、必死に手当、声かけをすることができました。

応急処置グループ②の災害対応訓練の様子

近くの公園に友達と５人で遊びに出かけました。公園についたとき立っていられないほどの大きな地震が起こりました。友達の一人がたおれてきたブロックべいに足をはさまれてしまいました。なんとか自分ではい出したものの左足を骨折しており一人では動けそうにありません。もう一人の友達は、落ちてきた電灯でおでこと左うでから出血しています。ゆれがおさまるのを待って、すぐとなりの公民館に一時ひなんすることになりました。

【止血・足の骨折の手当→たんかで体育館へ運ぶ・声かけ】

上記の状況設定の、即興で対応しました。「人前で緊張して、思うように言葉が出てこない」「手が震えた」「うまく処置できたか心配だった」など実践形式ならではの経験を得ることができました。その経験一つ一つをふりかえっていくと、実践知につながっていきます。

防災グッズグループ①の避難所運営ボランティア訓練の様子

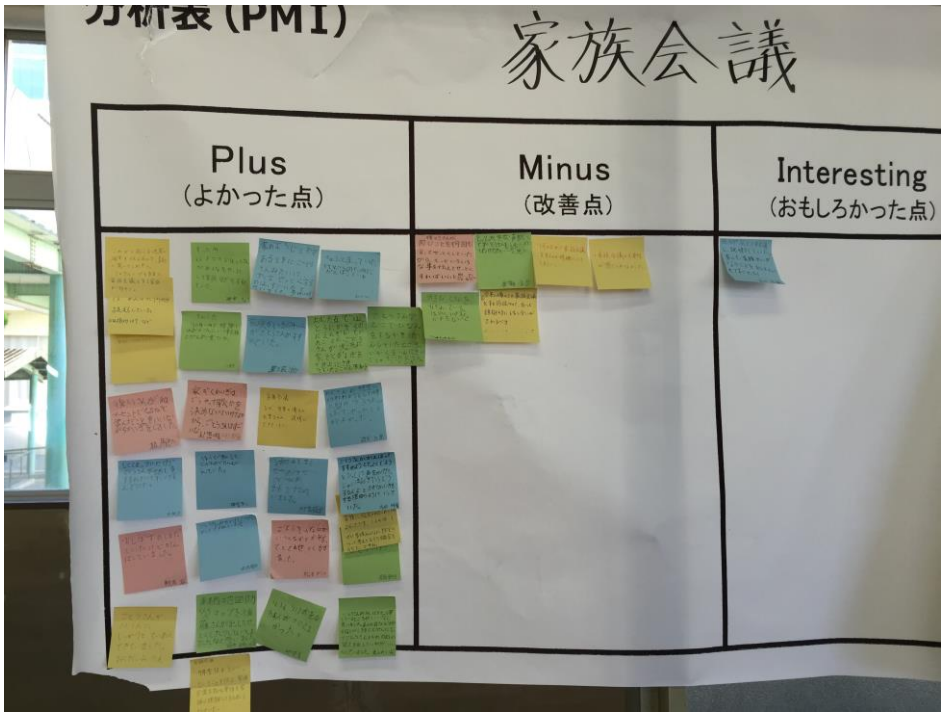
大震災が起こった翌日、避難所となった体育館で水と食料を避難している人に配ることになりました。しかし、紙コップはもうほとんどありません。使った食器を洗えるほど水のよゆうはありません。
児童は避難所で自分達にできるボランティアをすることにしました。

子ども達が避難所運営ボランティア役、参観の先生方が避難住民役で即興の訓練（設定は上記）を行いました。子ども達は、紙でコップを作ったり、ラップでお皿を包んだりして次々押し寄せてくる避難住民に対応しました。途中教頭先生が苛立つ避難住民役で「いつまで待たせるんや！」と迫真の演技。子ども達はパニックになりながらも、投げ出さずに自分にできることをやり続けました。

防災グッズグループ②の防災グッズ選定訓練の様子

４分間という限られた時間の中で、８つグッズを入れることができるなら何を防災バックに入れるかという訓練を行った。選んだ後、なぜそのグッズを選んだのかという意図開きを子ども達自身が行った。災害後の状況の中で、あるものをいかに生かすかを即興で考える練習になりました。

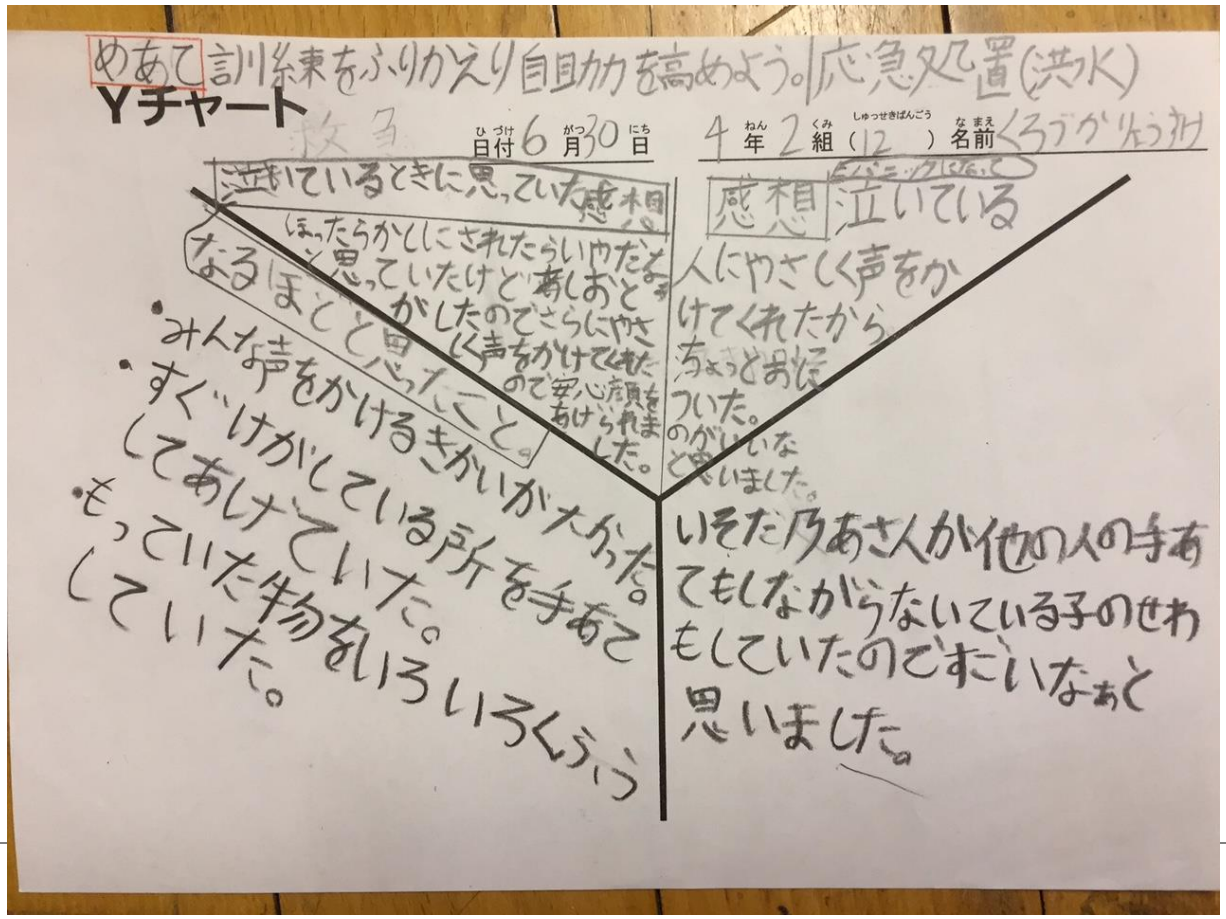
１グループ終えるごとに、子ども・大人が同じ方法で評価し合う



一グループが訓練を終えるごとに、子ども達も参観者も「よかった点」「改善点」「おもしろかった点」という視点で付箋を貼って、評価していきました。一つの実践について子ども達と大人達が、それぞれの視点から意見を交わした過程が可視化された貴重な資料となりました。

６月 30 日：設定された状況の中で自助力を発揮できたかをふりかえる（１）

子ども達のふりかえりシートより



分析表（PMI）

ひなん行動

日付 6月30日　4年 ）組（ 9 ）名前 梶原啓太

めあて 訓練をふりかえり自助力を高めよう

Plus（よかった点）	Minus（改善点）	~~Interesting~~ ~~（おもしろかった点）~~ がんばった所
・歩きながら話あえた。 想定にとらわれないことばで15かいまであがれた。 ・とおまわりで安全なところをとおれた。 ・古いたて物からはなれて頭をまもれた。	・もうちょっと長く歩いたら川に思った。 ・かいだんでつかれてこけそうになったりしんどくてとてもおくれた。 ・必ずのときはんかちでおさえたけれどもうちょっとしせいをひくくないとだめだと思った。	・ボランティアをうまわすり15かいまでのぼった。 ・話がまとまった。 ・はいみちをえらべた ・がんばって古い家の道をとおった。

Yチャート

ひなん所ボランティア

日付 6月30日　4年 2組（22）名前 岡井穂乃実

ボランティア活動をやった感想

教頭先生が、公助(共)のことをもんくつけている役をしてくださいました。が、私は、「えぇ～そんなこと言われても いそがしんだからぁ～」と思ってしまいました。

よかった点でく感想

玉巣さんは、『みんなで助け合っているんな人の役わりを果たしていた』と、沖中さんに少しにた感じでした。三木先生は、『小学生の子ども達にもできそうなことを考え工夫してコップに水を注いじくれましたね。うれしかったです。ありがとうございました』と書いてくださっていました。気持ちがうれしくなりました。

コップなどにふくろを入れるのがおくれたりして、「あぁ～入れるのおそいから、みんな待ってる～はやくしないと～」と思って、パニックになって、私もそっちを手伝おうと思えました。

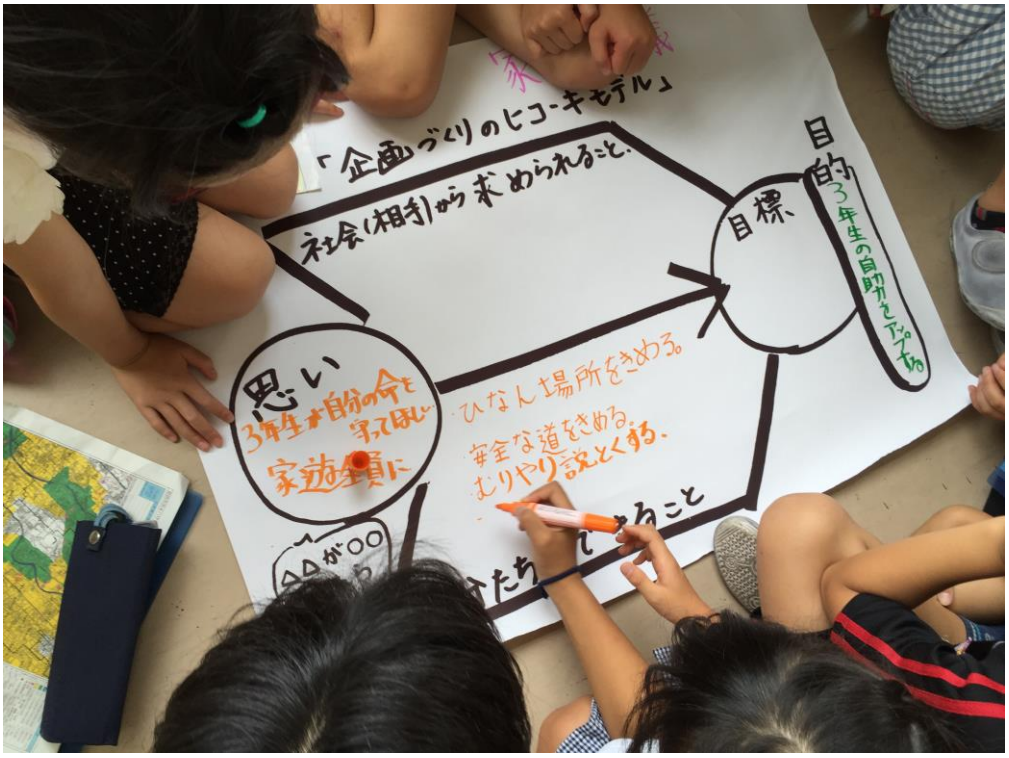
みんなの感想（ボランティア）

沖中さんが、みんな別の行動をとって、すすめていたと書いてくれていたので、こうしてよかったなぁと思いました。残ねんなところが一つありました。改ぜん点の所に、『コップにかぶせていたふくろを手でさわっていたのがえいせい的にわるい』と書いてあったので、そこを直したいと思います。

めあて 訓練をふり返り、自助力を高めよう。

７月 ３日：学んだことをもとに誰に、何を伝えるのかを考える。企画のポイントを学ぶ。（１）

７月６日：３年生対象の「自助力アップセミナー」企画書を作成する。（１）



「企画づくりのヒコーキモデル」（中野民夫氏原案）を活用し、グループごとに「３年生の自助力を高める」ための企画を考えました。「３年生が自分の命を守れるようになってほしい」という４年生の思いをもとに、各コンセプト・内容が決まりました。

７月７日：「自助力アップセミナー」の予行演習を行う。（１）

７月８日：３年生対象に「自助力アップセミナー」を実施する。（２）

「避難行動グループ」の四年生が開発した、防災スゴロク、「水害が多い場所なので一回休み」や「一時避難所に到着で二進む」など、楽しみながら、校区の防災施設等について学ぶことができました。

「防災グッズグループ」の四年生は、紙コップやスリッパの作り方をレクチャー。作り方を教えてもらった三年生は嬉しそうに、出来上がったものを持って帰りました。

「応急処置グループ」の四年生は、三角巾の代わりにビニール袋を使った手当を三年生に行いました。自助力を高めることを中心に学習してきた四年生にとっては共助にチャレンジする機会にもなりました。

7 月 10 日：「自助力アップセミナー」をふりかえる。（1）

【４年生の感想】

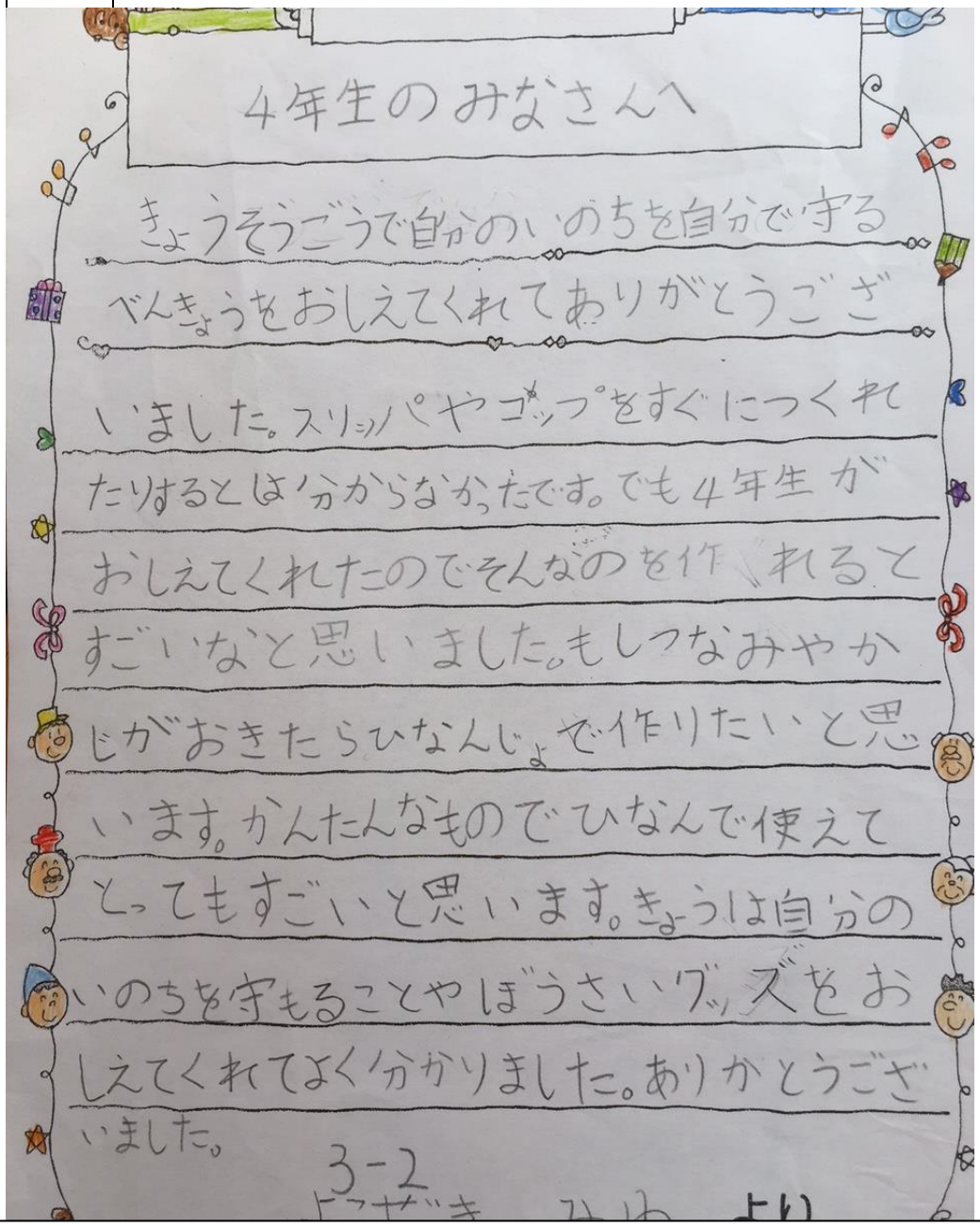
・先生に緊急地震速報の音をかけてもらう予定だったけど、先生がいなくて、自分達の声で言った。そしたら、３年生がすぐに反応して机を持っていたので、判断力が上がったと思った。３年生が笑ってくれると元気が出て楽しくなった。

・３年生の子が作ったコップで飲んでいるとき、とっても笑顔で私もなんだかうれしくなった。３年生が、今の２年生に来年伝えてくれるとうれしいです。

・避難の練習でわたした机をゆらしたとき、3 年生の子が机の脚をななめに持ってくれていたので、とても分かっていると思った。

・「知る」「いかす」まで３年生に伝わったかな。３年生に教えることはできたけど、本当に災害のときに使えるかなと思った。

３年生の感想



4年生のみなさんへ

きょうそうごうで自分のいのちを自分で守る
べんきょうをおしえてくれてありがとうござ
いました。スリッパやゴップをすぐにつくれ
たりするとは分からなかったです。でも4年生が
おしえてくれたのでそんなのを作れると
すごいなと思いました。もしつなみやか
じがおきたらひなんじょで作りたいと思
います。かんたんなものでひなんで使えて
とってもすごいと思います。きょうは自分の
いのちを守もることやぼうさいグッズをお
しえてくれてよく分かりました。ありがとうござ
いました。

3-2

【その他の３年生の感想】

・防災グッズや手当の仕方、避難所を教えてくれてありがとうございました。防災グッズを家で作ったりして、おかあさんとおとうさんに見せました。一番気に入ったのが、新聞紙で作ったスリッパとナイロンぶくろで作った三角巾でした。

・自助力アップセミナーを見て、４年生の人たちはすごい人たちばっかりでした。ぼくたちが知らないような、ふくろで三角巾を作ったり、新聞紙ですりっぱを作ったりする方法を教えてくれてありがとう。２時間も教えてくれてありがとう。ぼくも４年生になったら教えるね。

・いろんな勉強を教えてくれてありがとうございます。自助力が自分を助ける力だとは知りませんでした。自助力はいろんなことから、自分を守ることができる力なんだなぁと思いました。いろいろ勉強になりました。

・４年生のみなさんのおかげで、津波や地震が来たら何をしたらいいのかがよく分かりました。劇をみたり、防災グッズをつくれたりして楽しかったです。

7月11日：単元をふりかえり、自分の自助力の高まりについて感想文を書く（１）

夏休み：４年生全児童が各家庭において災害に備えた家族会議を行う（夏休みの課題）。

９月１日：防災の日に合わせ、４年生の学習の成果をもとにした、家庭での防災家族会議を小学校全家庭に呼びかける「ほけんだより」を養護教諭から配布する。

ほけんだより　9月

2015年
手柄小学校
保健室

9月1日は、防災の日。そして・・・

「家族会議」をしてみませんか？

9月１日は防災の日です。１学期に、４年生は総合学習で防災の学習をしました。その中で、４年生の子どもたちが実際に家族で「家族会議」を開いて、災害が起こった時に、一人ひとりがどのように行動するか、また、災害に備えて何を準備しておくかなどをご家族でしっかりと話し合い、確認していました。

災害は今や、テレビニュースで見るだけのものではなく、私たち身近なところで起こっています。災害を「いつか」起こるものと考えるのではなく、「いつも」備えておく習慣を身につけたいですね。

実際に、４年生の家族がおこなった家族会議の内容を載せています。家族構成も年齢も各家庭様々です。そのご家庭にあったルールや準備物を話し合って、記入することによって、家族全員が再確認できます。話し合っておくことで、ご家族の大切な命が助かります。この機会にぜひ、ご家族で話し合ってみませんか？（裏面をご利用ください。）

９月上旬：３年生～６年生対象に、身体測定の際に、防災に関する保健指導を行う。

２学期：２学期の総合的な学習（テーマ：福祉）では、災害時の福祉について、故黒田裕子さんの生き方、果たした役割から学ぶ。

活動の中での工夫・ポイント	地域と共に （地域性）	・防災マップでの宿題をするために、校区全家庭に配布されたマップの保有数を確認したところ、７割もの家庭において、破棄したか、行方不明という現状が分かった。そのことを自治会長にフィードバックをして、配布の方法を検討していただくよう依頼した。 ・校区の防災マップを作成した自治会長にも授業参観に来ていただき、防災マップを活用する様子を見ていただいた。 ・防災マップを家庭だけではなく、学校の各教室に防災学習の資料として配布してもらえるよう、姫路市の危機管理室に依頼した。 ・地域が作成した防災マップを各教室に配布することを提案、登下校の安全を話し合う会で使用するようになった。
	オリジナリティ （独創性）	・とにかく非常事態での判断が求められるので、授業内でも災害の仮想の状況設定だけ行い、子ども達に「この状況に対応してください」という課題を何回も出して、即興で対応する訓練を行った。 ・兵庫県の震災・学校支援チーム（EARTH）員と協働で行うことにより、各教科や体験学習等を通して、災害から自らの生命を守るため主体的に行動する力を育成する「兵庫の防災教育」に基づいたカリキュラムを開発することができた。 ・防災マップを用いて、家族会議を行う宿題を学年全体で行うことで、各家庭を巻き込んでの、防災が可能になった。 ・体を通して身につけることを重要視した。体験した際のパニック、焦りなど自分の精神状況も振り返り、大切な情報として扱うことで、自助力を高める実践的なカリキュラムとなった。 ・「知る」→「いかす」→「伝える」という防災教育のポイントを大切にプログラムをデザインした。
	子ども達の自発的な活動 （自主性）	・自主学習ノートを活用して、家の防災グッズなどを調べてくる児童がいた。 ・学校行事として行われた保護者への引き渡し訓練において、事前の調査票を記入する際、保護者が近隣の避難所などを知らない場合も多くあった。その際子ども達が家庭で避難所や、一時避難所の説明を保護者におこった児童もいた。 ・水害時危険箇所となるマンホールの位置を下校中に調査したり、姫路市のＨＰに掲載されているハザードマップを自分から調べてくる児童もいた。
	活動を一過性にしないための工夫 （継続性）	・３年生対象の「自助力アップセミナー」を企画・実施することで、本校の防災教育の流れとなるように工夫した。 ・養護教諭とも共同でカリキュラムを考え、実践を行ったので、その後も継続的に保健指導で防災教育を行っている。 ・本単元を学校全体の研究授業の一環とすることで、本校の教職員全員が事前の授業検討、本授業、事後の検討会と、防災に関するテーマで授業を検討することができた。 ・この度の単元で得た知見をもとに、町別児童会（学期に１回、登校班での登下校の現状報告や、登下校指導を行う会）で、防災の観点から指導を行う。
活動の成果 （子どもやクラス、地域の変化は見られたか） その他アピールしたい点		・小学校の段階では、徹底的に自助力を高め、中学校、高校となるにつれ「共助力」の割合を増やしていくべきと考えて、「自助力」を高めることに徹底的にこだわった単元を構成した。 ・本単元での学習後、児童２名が放課後に公園で遊んでいた際に、１名が高所から落下し、頭部を挫傷する大けがを負う事故があった。その際、本人と友人２人で、周りに大きな声で助けを求め、工事現場の作業員に声をかけ、救急車を依頼することになった。偶然にも本学習で学んだ“自助力”が発揮される機会となった。 ・本学習を経た４年生は、保健室に怪我等で来室するときも、「どうしたらいいですか？」と児童から尋ねてくるような主体性を感じられるようになった。 ・「誰かにしてもらう防災」から「自分ができることを探し、行動する防災」へと意識が変わった。 ・先日の栃木県、茨城県での災害のニュースを見たときも、災害を見る視点があるので、自分がその場にいたらどうするかと考えることができるようになった。 ・本単元に関わった教員同士が防災に関する情報交換を日常的に行うようになり、災害が起きた際などに、タイムリーな防災教育が行えるようになった

「こう水をニュースで見て」

石見　晴輝

ぼくは、１０チャンネルを観ました。渋井川で洪水が起こりました。道では２９３ミリというおそろしい洪水が起こりました。

もしぼくらの町でもこんな洪水が起こったら、ぼくは「自助力」を使ってひなんじょに逃げます。母さんは、そのとき逃げているので、とにかく自分の命を自分で守ることが大切です。ぼくは洪水がとってもこわくなりました。いい勉強になりました。

「ニュースでびっくり」

森　楓花

ニュースを見ていたら、栃木県と茨城県で特別警報が出ていました。

この辺りは、特別警報は出たことはないけど、どれぐらいすごいのか気になりました。警報とりちょっと強いくらいかなぁと思っていたけど、ニュースで川があふれたのを見て、ちょっとどころじゃないなと思いました。姫路に来たらこわいなぁと思いました。

私たちはまだ小学生なので、すぐに流されるなと思いました。高いところに逃げないといけないので、中央公園のすべり台だったら流されると思いました。もっとすぐ逃げれるようにしていきたいと思いました。

ニュースを見て

池尻　憲哉

ぼくは茨城、栃木県の台風の大雨で、鬼怒川が洪水になっているニュースを見ました。とてもこわかったです。

自衛隊が電柱につかまっている人や、車の上に乗っている人を助けていたのでかっこいいと思いました。たくさんの人を早く助けてほしいなぁと思いました。

それから、洪水が起きたとき木や家が流されているのに、一軒だけ流されていない家がありました。

その家は、白くて、四角い・・・「ヘーベルハウス」の家でした。

ぼくの家もヘーベルハウスなので、ぼくは

「学校の家族会議の紙に、一時避難所を家にしてよかったなぁ。」

と思いました。もし船場川が洪水になったら、ぼくは家のシャッターをしめて、急いで二階に上がろうと思いました。

これから、災害が起きたときは、家族ルールを守って行動したいと思いました。

ニュースを見て

金澤　音は

私は、最近のニュースを見て、茨城のニュースにとくに目をやりました。

なぜかというと、雨が降って、川があふれて、なんと家まで流されていたからです。

私はそのニュースを見た後に、もし姫路市がそんなことになってしまったらと考えてしまいました。ニュースを見た後、急いで一応のための非常食や飲み物を確認しました。

必要な物だけ、パンパンになるまでリュックサックにつめこみました。

その後に、もう一度だけそのようになった時に逃げる場所を、もう一度だけ確認しました。おばあちゃんは走れないので、私がおばあちゃんをおぶろうと思いました。

その後、すぐに考えたのは犬のフタバをどうするかです。私は逃げるときにフタバを連れて行くと言ったのに、母さんはフタバを置いて行ったほうが手に何も持たずにすむと言ったので私は一しゅん泣きそうになってしまい、母さんを説得しました。すると、母さんが、

「分かった。フタバも連れていけばいいよ。」

と言ってくれました。私はその後にホッとしました。本当に大変だと思いました。